

図書館だより

令和元年9月



文化の秋、読書の秋です。

夏休みに借りた本は返しましたか？

今年は梅雨明けが遅く、涼しい夏だと思っていたら、激しい暑さ、そして、九州を中心とした豪雨。夏休みが始まって1週間ですが、皆さんの体はすっかり学校のルーティーンに入り込むことができているでしょうか？

2学期から給食も始まったので、夏休みに文化委員が図書室で活動することをお休みにしています。しかし、ボランティアの方々は今まで通り、皆さんが図書室にきて、本に親しむことに協力してくださっています。図書室は夏休みと放課後、開館しています。図書室でゆったりした時間や自習の時間を過ごしてみませんか。

《図書補助員 森田さんおすすめの本》

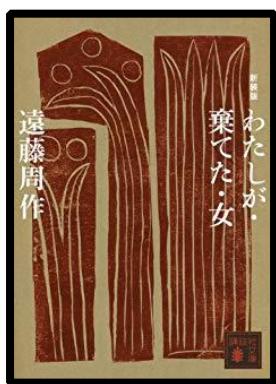


「トビウオのぼうやはぴょうきです」

いぬいとみこ

1954年3月1日ビキニ環礁で行われた水爆実験のことを海のサンゴではやしくらすトビウオ親子に起こる悲劇の童話として書かれています。悲劇（水爆実験）によってトビウオの子は病気（原爆症）になります。

トビウオのぼうやは助けてくれるひとはないのでしょうか。



「わたしが・棄てた・女」

遠藤周作

6月28日、新聞記事に「ハンセン病家族訴訟で熊本地裁が国に賠償を命じる判決」とありました。

この小説の井深八重の生き方に思いが巡りました。小説の登場人物森田ミツは水のように低い所へ落ちていくばかり。あらがえるだけの環境に恵まれず、ゆえに知性も乏しくまた、容姿も備わっていない。でも、ハンセン病という病を通して、他人の苦しみを自らの苦しみに重ね合わせていきます。

